

平成29年度 南アルプス市立若草小学校 第2回自己評価書

若草小学校

校長 澤登 一浩

本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
 - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

2 全体評価

I 学校生活について

【学校生活について（後期） 考察】

◆「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、児童・保護者ともに高い。肯定的な回答の中で「ほぼ」の割合は保護者の方が高く、児童の結果と楽しいと感じている割合に若干の相違がみられる。6.9%（昨年度 5.0%）の否定的な回答をした児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

◆「クラスは目標に向かってがんばっている」について

一人一人が学級への所属意識を持ち存在感を味わうことは、学校生活を送る上で、大切である。児童アンケートでは、前期（肯定 98.0%）後期（児童肯定 97.6%・保護者肯定 96.4%）と同様に後期のアンケートでも、「クラスは目標に向かってがんばっている。」と感じている割合は高い。

◆「困った時に誰かに相談できる」について

不登校やいじめが社会問題になっている昨今、子どもたちが一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることが重要視されている。若草小では児童の 89.2%（前期 91.7%）と約 9 割が肯定的な回答をしている。（保護者は 92.0%）1 学期に引き続き概ね満足できると考える。否定的回答した約 1 割の子どもに目をむけながら、相談しやすい体制を今まで以上に構築し、子どもが孤立しないような指導を心がけていきたい。

◆「あいさつ」について

児童会や P T A の協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。また地域を巻き込んでの「見守り隊」も結成し、安全確保を含めあいさつ運動を推進した。前期同様（肯定 96.0%）後期（肯定 92.5%・保護者 87.0%）も児童のあいさつに対する意識の割合は高い。学校や地域の中で元気よくあいさつができるよう、今後もあいさつ運動の取組を充実させていきたい。

◆「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。（児童前期肯定 98.6%、児童後期肯定 97.8%、保護者後期肯定 96.4%）これからも校内美化や環境整備に努め、愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

II 学習指導について

【学習指導について（後期） 考察】

◆「学校の授業がわかる」について

学校生活を送る上で「学校の授業がわかる」ことは、最も大切なことの一つである。児童・保護者ともに肯定的な回答が約9割あった。（児童前期肯定 92.5%，児童後期肯定 94.5%，保護者肯定 89.8%），概ね満足できる結果である。「基礎的な学力が身につく指導」については、保護者の回答では基礎学力の定着，授業への集中，発言する機会等，「ほぼ」が肯定的な意見の半分程度を占めてはいるが約9割が肯定的な意見が示し，保護者からの信頼が厚いことを感じる。今後も保護者への理解と協力を得る中で，さらなる授業改善に取り組んでいく。否定的な回答をした5.7%（前期7.5%）の児童に対し，授業を楽しく感じられるように，基礎・基本を大切にしたいわかる授業を展開していきたい。

◆「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

校内研究会等を通し，「話を聞く態度の育成には，全職員で研究を進めた。児童の肯定的な回答が多く97.5%であった。（前期児童96.6%）。保護者においても94.6%と肯定的な意見が多い。これから，まとめの時期に入るが，今まで以上に授業改善を図り保護者への理解を深めていきたい。

◆「授業中の発言」について

発言をすることに対して，保護者は肯定的な回答が95.4%あった。児童は4・5・6年生の「そう思う」の3年生以下に比べ減ってくる。まとめの時期に入るが今後も校内研修でめざす「自分の考えを伝え合う学習」を推進し，さらなる授業改善を進める。

◆「宿題や自主学習」について

家庭学習については，児童は前期84.8%（そう思う54.9%ほぼ29.8%）と比べ，後期90.8%（そう思う69.2% ほぼ21.0%）5%の改善が見られている。保護者の協力については88%が肯定的な意見を回答しているが，肯定的な回答の内訳をみると（そう思う39.4%，ほぼ48.9%）になり，「ほぼそう思う」の割合が高い。今年度も，学期ごとに，家庭学習強化週間を設け，保護者に呼びかけ連携を進めながら取組を行った。学力の定着において家庭学習はとても大切である。今後も家庭の協力を得られるよう取組を進めていきたい。

III 生徒指導について

【生徒指導について（後期） 考察】

◆「きまりや約束を守る」について

学校生活の中で，学校の約束や決まりを守ることはとても重要である。児童も保護者もほぼ90%以上が肯定的な回答（児童96.5%，保護者96.2%）をしており，前期（児童97.2）に引き続き満足できると結果と考えられる。一方，全校では，3.3%の否定的な回答をした児童も存在している（前期2.8%）。一人一人の児童にしっかりと目を向け，指導にあたりたい。

◆「友だちのいやがること、言ったりやったりしない」について

「友だちのいやがることを言ったり、やったりしない」について、児童では「していない」という肯定的な割合が 88.0%。(前期 92.9%) とほぼ 9 割である。保護者でも「いじめへの対応」に肯定的な 91.4%と 9 割を超える。しかし児童の「そうは思わない」も 5.1%いて (前期 2.2%)、前期よりも増えている。年 2 回の Q U 検査等行ってはいるが、さらに丁寧に一人一人に関わっていくことが求められる。いじめや諸問題行動への対応の基本は未然防止、早期発見・早期対応である。これからも、「友だちのいやがることを、言ったりやったりしない」ことを大切に居心地がよいといえる学級づくりを目指して学級経営にあたりたい。

IV 学校経営について

【学校経営について（後期） 考察】

◆「学校行事」について（保護者）

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されていますか」の項目について、肯定的な回答が 97.6%であった。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。授業時数の確保等、検討事項はあるが、今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとって、また保護者が満足を得られるような学校行事が展開されるよう努めたい。

V 研究について

【研究について（後期） 考察】

◆「校内研究会」について（教職員）

100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。

「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した 5.76%の児童、聞く態度や発言することに否定的な回答をしている 2.5%の児童へ、今まで以上にきめ細かな指導を行っていきたい。また、来年度は新学習指導要領の 2 年後に本格実施される移行期あたり、5・6 年の週 2 時間、3・4 年に週 1 時間の外国語、外国語活動や特別な教科道徳が始まり、授業数も増える。そこへの備えや対応も研究に値する。さらに、家庭学習にも、今後も継続した取組を続け保護者の理解と協力を得ながら、今後もさらに研究を重ね、児童の学力向上に努めたい。

◆「特別支援教育」について（教職員）

特別支援教育に対する校内支援体制は、肯定的な回答が 100%で、前期同様充実していると考えられる。本校には特別支援クラスが 4 クラスあり、普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。定期的に行われる特別支援校内委員会や臨時のケース会議などを通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行ってきた。これからも一人一人を大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていく。

VI 施設・設備・安全管理について

【施設・設備・安全管理について（後期） 考察】

◆「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心して安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは肯定的評価が 96.8% 高い評価を得ている。教職員も肯定的評価が 100% と高いが、そう思うが 18.2%、ほぼそう思うが 81.8% であり、施設の老朽化と共に安全点検等の大変さが伺われる。設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止にこれからも努力していかなければいけない。

◆「施設・設備」「教育備品」について

保護者に学校の施設を聞くと前期も後期もほぼ同じで 9 割の肯定的回答を得た。

前期 93.7%（そう思う 35.0% ほぼ 58.7%）後期 91.2%（そう思う 37.5% ほぼ 53.7%）であった。しかし、学校を使っている教職員は否定的な回答が多く、前期 71.0% だった否定的な回答後期には 91.7% に増えている。また消耗品など教育備品についても肯定的な回答が前期 38.7% 後期 21.2% と低い。耐震に関わっての非構造部材の工事を行ったが、体育館を初め、47 年経った校舎は、雨漏りや、壁の劣化等深刻である。前期にあげてもらったトイレ等も清掃は業者に入ってもらったものの、構造上修理がきかず使用禁止の場所も出てきている。長期的にお願いすること、早期に解決するものを見極め、要望をこれからも出していく。なお消耗品についても、大切に節約して使うことを心がけ、必要なものには予算を要求していく必要がある。

◆「登下校時の安全確保・避難訓練等」

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。教職員の肯定的割合は高いが「ほぼ」の割合が多い。保護者も学校への肯定的評価は 9 割を超え、満足できる結果となっている。ただ、保護者の協力に目を向けると肯定的割合が 7 割と改善の余地がある。見守り隊も根付いてきているので、今後も保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していく。

VII 保護者・地域住民との連携について

【保護者・地域住民との連携について（後期） 考察】

◆「情報発信（よく目を通してしているか）」について

各種お便りや授業参観や学校行事の計画など、肯定的な回答が 9 割を超えている。保護者からの相談や要望に適切に対応しているについても肯定的な回答が 9 割を超えている。今後も、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、さらに協力し連携をとれるとよい。

◆「授業参観 学校行事への参加」について

本校では、月に 1 度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日

を設けている。授業参観や学校行事の持ち方については肯定的評価が 96.6%と、とても良い回答を得ている。今後も行事の見直しも検討していくが、保護者や地域が満足できる行事の工夫が必要である。

◆「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

肯定的な回答が9割を超えており、職員一人一人努力している様子がうかがえる。しかし 5.0%の保護者に否定的な回答（内そう思わない1%）もみられる。保護者との関係を密にとりながら、これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていく。

◆「安全確保・見守り活動への関わり」について

見守りたすきを導入し、見守り隊を地域に広げることができた。児童の登下校でたすきをつけている方を見かけることも多くなった。保護者の肯定的な回答は7割であるが「そう思う」が27.4%「ほぼ」が42.6%と保護者の関わりを改善できる余地があると考えられる。保護者をどう巻き込んで子どもたちの安全を守っていくか今後検討していきたい。

3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、学校施設等の一部例外があるものの、多くの項目で肯定的評価が否定的評価を上回っている。今後も改善・推進を図りながら、日常行われている教育活動を継続していくことが大切である。

2回のアンケート結果を踏まえ、今後さらに気を付けて取り組むべきことを以下にまとめた。

【学校生活について】

○児童の抱える困難さや不安に寄り添い（QU検査等を使いながら）、より良い人間関係が構築できるように、安心できる学校を目指して職員一丸となって取り組む。

【学習について】

○2年後に始まる新学習指導要領に向けて、思考力・判断力・表現力を高めるため、先生や友だちの話を「聴く」ことも大切にしながら、授業中での発言や質問、意見をさらに増やしていきたい。校内研究とも合わせ、学級・学年・ブロックで連携した取組を進める。安心して発表が行える学級の雰囲気をつくっていくことは、互いを認め合うことにもつながり、いじめのない学級づくりにも通じている。「学び合い」を大切にしたい校内研究のテーマをこれからも継続していく。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状では、家庭学習の状況には個人差が大きい。県から出ている家庭学習のパンフレット（学びの甲斐善8ヶ条）等利用したり、家庭学習推進期間の設定回数や内容を見直したりして、家庭学習を保護者の理解と協力のもとに連携していく。

【生徒指導について】

○学級づくりを大切に、「学び合い」の授業づくりとともに、あたたかい人間関係の構築に努める。いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、多くの目で確認できるような組織の充実も必要である。学校は、いじめはどの学校でも起こりうることを前提にしながら、いじめは絶対に

許さないという毅然とした態度で指導にあたることが大切である。

○防犯やあいさつを目的とした「わかくさ見守り隊」を自治会に協力を要請し、PTA活動でも取り組みながら、その成果が出てきている。今後も継続していく。児童会・PTA・地域の方々とも協力し合いながら、あいさつ運動を工夫し今後も推進していく。

【施設・設備について】

○校舎が47年経ち、老朽化も進んでいる。前期の保護者からの意見ではトイレ、暑さ対策、体育館、耐震・老朽化、学童建設へ対策が必要と見て取ることができた。校舎の非構造部材の耐震工事は行ったが、まだまだ修繕の必要な個所多い。長期的に対応を考えるもの、緊急性があるもの等、予算と相談しながら（要求しながら）これからも、児童が安全・安心して学校生活を送れる施設・設備を整えたい。

第1回学校評価を通して決めた指導重点とその取り組みの成果

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・運動会や学芸発表会などの取組を通し、一人一人が生き生きと活躍できる場を作ることができた。
- ・いじめの無い人間関係を構築するために、安心して学べる教育環境づくりに努め、困難さを抱えていた児童に丁寧な寄り添ってきた。その成果が上がってきている。

○PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・わかくさ見守り隊の推進とともに、保護者や地域にあいさつ運動を広げることができた。
- ・児童会を中心となり、あいさつ運動を楽しく工夫し、あいさつが広がった。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・校内研究では、各先生の持ち味を活かした研究授業が複数行われ、外部講師等からもよい講評をいただいた。授業の中で「聴くこと」「話すこと」を重視し「学び合い」の授業がさらに推進された。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、子どもたちの習慣化につなげることができた。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本の定着や、家庭教育の時間の確保を行っていくことができた。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・普段から学級の子どもの様子に気を配り、Q U検査を活用するなど、いじめの早期発見、早期解決の取組を行い、何か問題があった場合には多くの教師がかかわり指導にあたった。全校職員一丸となった指導、協力体制のもと、いじめにつながる小さな気持ちの荒れを収めていくことができた。
- ・児童会が中心となり「ありがとうの木」や「うれしかったこと」をお昼の放送で流すなど、子どもの視点で、安心して学校生活を送れる取組がなされた。

○施設・設備について適切に対処していく。

- ・安全点検等を適切に行い、すぐに修繕できる箇所、また予算を計上し時間や費用がかかるもの等その必要感応じて順位づけを行い、適切に対処した。非構造部材の耐震工事が行い（体育館の電球の固定電球替えを含む）、トイレ等は清掃を他校より多くすることができた。トイレの修繕等は具合が悪いと早急に対応したが、構造上修理のきかないところもある。学童建築のため校庭の一部が使えなかったが、子どもたちは元気に校庭を使い、新しい外トイレ等も整備された。